

「当たり前だと思わずに」

渋川市立渋川中学校 三年 三原 悠佳

自然災害はとても恐ろしいです。土砂災害も例外ではありません。なぜなら、どれだけ対策をしてもどうしても起こってしまうからです。

土砂災害には雨や地震などの影響で急激に斜面が崩れるがけ崩れ、土砂が一気に下流へ押し流される土石流、斜面の一部、あるいは全部がゆっくりと斜面下方に移動する地すべりの三種類があります。どれも当たり前だった日常をあっという間に奪ってしまいます。土砂災害は避難の判断が難しく専門家であつても自信がもてないそうです。

二〇十九年の台風19号では東日本台風といわれ多くの被害をもたらしました。私の住んでいる群馬県も例外ではなく藤岡市や下仁田町では土石流で多くの家が流されていて、けがをした人や命を落とした人もいるというのをニュースで見ました。当時小学五年生でした。ニュースを見る前夜私はかつてない大雨の大きな音、「必要であれば避難してください」という内容の放送が聞こえおびえていました。土砂くずれで私の家がまきこまれるかもしれない。避難が必要かもしれない。あの時の恐怖は今でも鮮明に思い出せます。

二〇二四年七月二十七日にも土砂災害がおきました。土砂災害の被害が東北で出てしまいました。土砂災害はたくさんさんの家を倒していききました。けがをしてしまった人や、土砂に巻きこまれて亡くなってしまった人も何名かいました。

このようなことは考えたくありませんが、もしかしたら大切なものが土砂災害によって奪われてしまうのかもしれない。あるいは、自分が土砂にまきこまれて死んでしまう日が来るかもしれない。そんなのは、絶対に嫌です。

だから私は、土砂災害についてもっと知るために、群馬県ではどのようにして土砂災害の対策をしているのか調べてみることにしました。調べてみると分かったのは、土砂災害の対策をしているのは砂防課というところだということです。砂防課では主に2つの対策を行ってくれているそうです。

一つ目はソフト対策です。この対策は住民が適切な避難を行えるよう、支援してくれています。たとえば土砂災害に関する情報の発信や避難訓練の支援などです。

二つ目はハード対策です。この対策では土砂災害を減らすための施設を建てるなどして、物理的に対策をしてくれています。がけくずれを防ぐ柵や土石流を防ぐ砂防堰堤、地すべりを防ぐために水を集めたり山をおさえたりする施設など、さまざまな施設があります。

しかし、どれだけ砂防課が対策をしてくれているかといって安心してはいけなと思います。私たち自身でも災害の対策をしなければなりません。

私は色々調べてみて、土砂災害を防止するために大切だと思ったことは主に四つあります。一つ目は、正しい知識を身につけることです。なぜなら、何も知らないとても危ないからです。土砂災害は一歩間違えると命を落とす可能性がぐんと高まります。目の前に土砂が来たときの逃げ方や土砂に巻きこまれたときにするべき行動などを調べておくと、実際にその状況に陥ったときに、最も良い行動がとれるはずですよ。

二つ目は、しっかりと準備をしておくことです。避難経路や避難場所をハザードマップなどを用いて家族で確認する。避難訓練に参加する。非常食や防災バックの用意をしておく。など色々あります。どれも簡単に用意したり、実行したりすることができるものばかりです。それをするこで起こってしまったときの生存率が大幅に上がります。だから私はみんながしっかりと準備をしておくべきだと思います。

三つ目は、手遅れになる前に早めに避難しておくことです。避難のタイミングがとても難しいけれど、失って後悔してからでは遅いです。「避難したほうが良いかな」と感じたらすぐに避難すること命を守ることにつながります。

四つ目は、他人事だと思わないことです。災害の少ない地域の人は「私のところは大丈夫」と油断してしまいがちです。しかし、災害はいつどこで起こるのか、誰にも予想できません。今日当たり前のように送れている生活が明日には当たり前ではなくなっているかもしれない。だから私はこの考えを頭の片隅に入れて生きていこうと思いました。